

## 令和4年度第2回古賀市総合政策検証会議 議事要旨

### 【開催概要】

開催日時：令和5年1月23日(月)19:00～21:00

開催場所：古賀市役所501～503会議室

出席者：

- (委員) 大庭委員、橘委員、豊貞委員、藤井委員、文屋委員、南委員、宮原委員、山田委員、吉岡委員、清水委員、松見委員、三戸委員
- (事務局) 田辺市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、教育部長、商工政策課長、経営戦略課長、経営戦略係長、経営戦略係員

### 【議事・要旨】

1. 委員長あいさつ	
2. 審議事項	<p>(1) 地方創生推進交付金 令和4年度事業に関する検証</p> <p>事務局：資料1、資料3に基づき説明 &lt;委員からの質問事項&gt; (全体)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・この交付金の位置づけは。</li></ul> <p>→ (回答)</p> <p>第1回検証会議で審議いただいた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を全体像とすると、今回は令和4年度から重点的に推進していきたい内容について実施計画を策定し、国の交付金として採択されたもの。今回の3つの事業は相互的に作用して効果を高めながら、推進していきたいと考え実施しているものになる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・どのような視点で議論すればよいか。</li></ul> <p>→ (回答)</p> <p>事業が目的通りの成果につながっているかどうか。それぞれのKPIにどのようなつながっていくか議論いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・この会議での議論がどのように反映されるか。</li></ul> <p>→ (回答)</p> <p>議論の内容を整理し、市の公式ホームページで公表し、来年度事業につなげていく。また、令和4年度の残りの期間で反映できるものは反映する。令和5年度・6年度と事業継続で採択いただいているので、PDCAのサイクルで反映していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国に対してこの会議の議論を国に報告するのか。</li></ul> <p>→ (回答)</p> <p>国に対しても年に1回報告することとなっている。</p>

・快生館の事業は独立採算するのは難しいかと思う。交付金がなくなった段階で切ってしまうのか、市が補助して継続していくのか。

→ (回答)

今後快生館が完全に営利目的で運営できるかについては様々な意見がある。今現在の入居者数については、本交付金を活用しての事業では実績が上がっていないが、令和3年度以前から行っていた誘致などにより8社入居している。快生館の部屋数の半分程度が入居済みとなっている。令和4年度までは全額市からの委託で運営しているが、令和5、6年度でいずれは自走できるように取り組んでいきたい。

・YouTube とインスタグラムが市のホームページにリンクがないので、市のホームページからは YouTube とインスタグラムに取り組んでいることが分からない。YouTube にアップしている動画は面白いが、回数が少ない。もう少し定期的にアップしたほうが効果的だと思う。もう少し簡易な動画にしてはどうか。市内の中高生や大学生などの若者に協力してもらい動画を作成してはどうか。インスタグラムでリールを見る人が多いので、リールの本数を上げてはどうか。

→ (回答)

市のホームページにシティプロモーションのポータルサイトをどのように位置づけるかを検討しており、将来的にはシティプロモーションのポータルサイトから YouTube やインスタグラムへ誘導していく形で考えていきたい。ポータルサイトが立ち上がる時期によっては、市のホームページにリンクを作成することも必要だと考えており、そこを含めて検討していきたい。動画の本数や更新頻度、リールの利用についてもいただいた意見を参考に、どうしたら皆さんの目に留まるのか研究していきたい。

・目標値の「インキュベーション施設利活用事業により県外から進出した企業数」、「リビングラボ、まちづくり体験プログラムへの参加者数」は現時点では未達との理解で良いか。

→ (回答)

令和4年11月時点では未達。

・3月末では達成できそうか。

→ (回答)

「インキュベーション施設利活用事業により県外から進出した企業数」は今後の実証実験の成果によって達成の可能性があると考えている。「リビングラボ、まちづくり体験プログラムへの参加者数」は年度内に残り2回実施予定のため達成をめざす。

・年度末の時点で、KPI が未達だった場合は、なぜ未達だったか、どこに課題があり、今後どのように展開したいかを記載した資料を公表していくと考えてよいか。コロナなど様々な要因や経済も厳しい状況であるため、未達になることも仕方がな

い面はあると思う。うまくいかなかった面もしっかり受け止めて公表して欲しい。

→ (回答)

KPIについては実績値をもとに分析したものを来年度国に対して報告する予定であり、目標値に達していなかった場合はその原因分析と改善点について記載したものを公表予定。

・インキュベーション施設利活用促進事業 実証実験の実施について

子育てや転勤等で就労困難とする女性を対象としてテレワーク講座があり面白い取組だと思う。以前、ひとり親家庭の就労の支援を行った経験があり、お子さんがいると遠い場所まで働きに出ることができない、できるだけ自宅の近くで働きたいとのニーズがあった。実証実験の結果を反映し、一人親家庭、特に母子家庭の支援に活かしてほしい。

→ (回答)

この実証実験では女性を対象に4回にわたって、見積の取り方、交渉の仕方、記事の書き方、インスタグラムの使い方などを勉強してもらった。すでに企業に採用された方もいる。今後は公共事業や、古賀市内の事業所の記事を書くような取組につながるのではと思っている。

・共創まちづくり推進事業 リビングラボの実施について

大学の生徒も西口エリアを中心とした街歩きに参加させてもらった。通学・通勤の人とそこで生活している人とはニーズや問題意識が違ふと感じた。現在は高校生リーダーを中心とした活動が実施されているが、今後中学生などそのコミュニティに密着した対象を入れていくなど検討しているか。

→ (回答)

8月21日に実施した「親子で参加しよう！2030SDGs カードゲーム、フィールドワーク」で西口の街歩きなどを行っている。その中で保護者とともに考えることで、子どもとして歩きたくなる街づくりを考えてもらうきっかけになっていると思う。そういった内容を今後リビングラボの中でコラボレーションしていくことで、様々な世代の意見を取り入れながら西口エリアやウォークブルシティとしての古賀市のまちづくりに反映させる仕組みを考えていきたい。

(2) 第5次総合計画アクションプラン（令和5～8年度）原案  
政策・施策ごとの現状と課題の整理

事務局：資料2-1、資料2-2、資料3に基づき説明

<委員からの質問事項>

(全体)

- ・ どういった観点から意見を述べるのがよいか。

→ (回答)

本日示している原案は第1回検証会議で諮った素案に対し、会議でいただいた内容や、社会情勢の変化等に対応して市でローリング、ブラッシュアップした内容となっている。第1回検証会議からは約半年が経過し、市だけでは気づかない外的要因や社会情勢の変化などがあると思うので、皆さまからご意見いただきたい。

(政策1-1～政策1-4)

- ・ 政策1-1「子育て支援の充実」について

現状と課題③の待機児童数はどのようにカウントしているか。また、待機児童数は、年度初めにはゼロを堅持しているが、年度末に向けて徐々に増加しているのはなぜか。

→ (回答)

年度初めは入所の申し込みを前年の12月頃から行い、4月1日時点で待機している児童がいれば待機児童としてカウントされる。古賀市においては、保育所と協議をしながら4月1日時点では待機児童ゼロを続けている。毎月入所の申込があるたび保育所と調整は行っているが、年度末に向けて途中入所を希望する方が待機児童として出てきている状況である。待機児童が出る原因としては、全国的に保育士の確保が難しいことや、施設の面積など全体的な対応が必要であると考えている。

- ・ まちの状態・課題指標について

めざす方向性が「-」となっているものは、まだ方向性が決まっていないというものか。

→ (回答)

「-」の指標は、指標としてしっかり把握し分析をしていくものとしている。例えば、「児童相談所における児童養護相談件数」は児童虐待の減少という観点で考えると、この指標が下がっていくことが適当と考えられるが、まだ隠れている児童を見つけ支援するという観点で考えると相談件数は上がっていくことが望ましい指標と考えられる。まずはしっかりと指標を把握し、課題を整理したうえで指標がどうなっていくのかを慎重に検討したいものについて「-」としている。今後アクションプランをローリングしていく中で変わっていく可能性もある。

- ・ 施策1-1-3「幼児教育・保育サービスの充実」について

保育ニーズについて調べているとは思いますが、市としての実施は難しいかもしれな

いが、保育士の労働環境や待遇について保育士自身がどのように思っているのか、きちんと把握して、市として対応できることがあれば対応して欲しい。そうすることでマンパワーの充実につながっていくと思う。

→ (回答)

今までは保育士から直接話を聞く機会はなかった。多くは施設管理者から話を聞いていた。来年度子育ての計画の見直しを予定しており、保育士から直接話を聞くことについて内部で検討している。委員の意見を踏まえて計画に活かしていきたい。

・施策1-3-2「明るく元気に交流し合うスポーツ活動の促進」について

現状と課題⑩に「クレジット決済が可能となり、利用者の利便性が向上しました」とあるが、現状として市の施設においては一定の条件を満たす団体のみが予約可能でありクレジットは個人の名義のため、利用料の支払を証明するものを発行してもらうためには窓口までいかないといけないと思う。クレジット決済を証明するものをオンライン上で発行はしているか。

→ (回答)

クレジット決済ができるようになり、窓口まで来る必要がなくなったことから利便性が向上したと考えている。しかし、支払の証明についてオンライン上で発行はできていないと思う。必要な方は窓口に来ていただくという実態があれば対策は検討していきたい。

→ (後日回答)

現状を確認したところ、予約システムでは利用料支払いの証明書等を発行できる機能はなく、また利用状況を確認したところ、令和4年10月の予約システムの運用開始以降、証明書発行の実績はない。担当の生涯学習推進課では、予約システムの運用開始前に利用団体への説明会を開催し、「領収済証明書」については窓口発行であることを説明したので、それを受けての話と推察する。現時点では予約システムを導入して間もないため、窓口発行の取扱いについては不便をかけるがご理解いただきたい。今回のような声があるということは利用者の利便性向上の課題と捉え、今後、先進事例を参考にするなどし、システム改修や更新を行うときに検討していく。

・政策1-4「人権と多様性の尊重」のまちの状態・課題指標について

「差別事象の発生件数」はどのようにカウントしているか教えて欲しい。

→ (回答)

令和2年度については新型コロナウイルスの発生が明らかになった店舗に対し、落書きが行われ、人権センターとともに対応に取り組んだ。平成30年度については後日回答する。

→ (後日回答)

人権校区啓発の催しを案内する回覧チラシに対して人権センターに差別電話があったもの。

・「差別事象の発生件数」は個人の案件について計上しているものではないということが良いか。

→ (回答)

個人の相談については入っていない。公の目に触れるような案件を計上している。

・施策1-3-3「豊かな心を育む文化芸術活動の促進」

施策1-3-5「読む・学ぶ・調べる図書館活動の推進」について

まちの状態・課題指標「文化協会の会員数」、「図書館利用登録者数」は減少傾向だが、「めざす方向性」は現状維持となっている。どの年度を基準に現状維持をめざしているのか。

→ (回答)

アクションプランは毎年ローリングしていくことから直近の数字であるR3の現状維持をめざしている。

(政策2-1～政策2-4)

・施策2-2-2「最期まで尊厳のある暮らしを続けるための支援の充実」について

亡くなるまで尊厳ある暮らしをつづけるポイントの一つが在宅医療かと思うが、古賀市としては在宅医療に対応している医療機関をどれだけ把握しているか。古賀市には大きな病院が2つあると思うが、在宅医療の依頼など、どのくらい働きかけをしているか。宗像市では在宅医療が充実しており在宅で亡くなるということが割と可能だが、古賀市ではどこまで可能か。

→ (回答)

地域の個人の医療機関が在宅医療を担ってくれている。県内でも在宅医療に関しては糟屋北部が最も前に進んでいると思われる。糟屋北部在宅医療ネットワークを福岡東医療センターと糟屋北部の医療機関でかなり前から形成をして密にやり取りをする体制をとってきている。県の医療体制の構築にも波及しているので、恐らく県内でも古賀が一番安心して在宅医療を受けられる環境にあると思っている。

・市民の方は在宅医療についてどれくらい認知をしているか。

→ (回答)

市内で戸別訪問すると、糟屋北部在宅医療ネットワークのシールが多くのところから、相当程度認知されている。ほぼすべての市内医療機関で、糟屋北部在宅医療ネットワークのご案内は周知されており、医療機関とともに長年努力して市民にアプローチしている。

・施策2-1-2「保健の充実と医療連携」について

現状と課題⑦に「また、今後新型コロナウイルス感染症が終息し、感染防止対策が緩和されると、新型コロナウイルス感染症以外の感染症が拡大する恐れがあります。」と記載があるが新たな感染症の発生と蔓延に備えるため12月に感染症法が改

正されている。医療体制の確保や人材の確保、医師の実労働など法律に明記されているため、それを確認したうえでの時点修正が良いと思う。例えば「改正感染症法の各施策の確実な実行が求められる」といった言い回しが良いかと思う。

→（回答）意見を踏まえて修正を検討する。

（政策 3-1～政策 3-2）

・施策 3-1-1 「活気とにぎわいを創り出す商工業の活性化」について

商工会では地場企業の人材確保が課題となっている。現状と課題の中で新たな企業誘致や開発といった言葉が目立つ。新たな企業と昔ながらの企業が融合していくことでまちのにぎわいにつながると思う。小さな企業に対しても取り組んで欲しい。

→（回答）

古賀市の経済を支えてくれている既存の企業・事業者へ引き続き支援する。特に新型コロナウイルス、物価高騰、燃料費高騰といった企業・事業者の経営に影響を及ぼすであろう状況に応じて、独自の支援策を行っており意識は高く持っている。新たな企業を誘致し、工業団地や工業系の土地利用転換をしていくことが財政的な面や、市民の方の働く場が新たに創出されるといった効果も同時に考えている。

（政策 4-1～4-4）

・政策 4-4 「環境の保全と継承」について

現状と課題④に「プラスチックごみを河川や海洋などへ流出させない取組が必要です。」と記載があり、具体的な取組を例示したほうが分かりやすいと思う。

→（回答）

具体的な取組としてポイ捨て防止の啓発を行っており、記載内容を確認したい。

・政策 4-4 「環境の保全と継承」について

まちの状態・課題指標の「二酸化炭素総排出量」がH29からR元にかけて下がっている。要因としては、生産量が減っているから工場からの排出が減っているのか、家庭ではコロナ禍で在宅が増えて排出量が増えているが、事業所の方は減っているなど、状況はどうなっているか。

→（回答）

国や県の数値を用いており、ここで具体的に示すことはできない。後日回答する。

→（後日回答）

平成29年度から令和元年度にかけて別紙のとおり、業務部門を除いて排出量が減少している傾向が見られるが、国が調査した数値であり、詳細は不明である。一つの公表されている指標として推移を注視したい。

・施策4-1-1「地域特性に応じた土地利用の推進」について  
まちの状態・課題指標の各駅の乗車人員数においてR2と比べR3が増加した要因は。

→（回答）

市内の公共交通全般でR2はコロナ禍の影響で大幅に乗車人数が減少している。R3はコロナ禍からの回復によるものと思われる。

・施策4-1-5「下水道の整備と経営基盤の強化」について

全国的に管渠の老朽化が問題になっている。現状と課題に事業収入が難しいといった内容が記載されているが、今後管渠の更新について予算化の方向性は。

→（回答）

下水道事業は令和元年度に公営企業会計に移行した関係で、赤字が大きく見えてきた背景がある。古賀駅周辺の管は40年以上経過していることから更新工事を進めているが厳しい状況。今後終末処理場などの施設の更新も含めて、料金の適正化を考える時期にきている。

・市民の関心は更新の費用が下水道料金に反映されるかだと思う。費用についてオープンにするなどアピールをした方が良いと思う。

→（回答）

現在の古賀市の下水道料金は県内で中位くらいである。どこの自治体も値上げする状況が出てきているが、適正かを見たいうえで、市民への周知の仕方を併せて進めていく時期にきたと思っている。

以前、広報のトップページで下水道について特集を組み、財政が厳しいことも発信している。今後も継続的に市民に関心を持ってもらえるよう取り組んでいきたい。

（政策5-1）

・施策5-1-1「みんなでつながる地域づくりの推進」について

現状と課題③に「参加しない理由として「地域活動を行う時間がない」と回答した人の割合が48.1%であることから、活動内容の見直しなどを行わない場合、存続自体が危ぶまれる自治会も増えてくるのが危惧されます。」とあるが、「地域活動を行う時間がない」ことに対し「活動内容の見直し」がアンケートの内容と対策があわないうように感じた。

→（回答）

「地域活動を行う時間がない」の回答の中には、あまりにも活動に時間を取られてしまうといった方も含まれるため、活動内容を見直すことで少しの時間であれば参加できるといった方が出てくると考え記載している。分かりやすいように表現を見直す。

・施策5-1-3「市民から信頼される持続可能な行財政運営」について

AIチャットボットは市民にどれくらい認知されているか。活用率はどうか。



	<p>→ (回答)</p> <p>AI チャットボットは市のホームページ上で運営していたが、市民の認知度や利用頻度も少なかったことから、令和5年1月20日から市の公式LINEを開設しており、今後はLINEの展開を考えている。</p> <p>・AI チャットボットはなくなるのか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>しばらくの期間LINEと併用していくが、将来的にLINEへ移行する。</p> <p>(全体)</p> <p>・参考資料のアクションプラン原案には基本事業まで掲載されているが、今回の会議では、政策と施策の現状と課題のみが議題となった理由はなにか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>本会議では政策、施策の方向性について大きな視点でご意見いただき、市の政策、施策、基本事業の見直しにつなげていきたいと考えている。基本事業は内容も多岐にわたることから、検証会議の目的としては政策、施策の検証に主眼を置きつつも参考資料としてアクションプラン原案を示させていただいている。</p> <p>・次年度以降の会議の方向性のイメージは。アクションプランについてはこのまま現状と課題のみ議題としていくのか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>今回が初めてのローリングの作業である。現状と課題に対し予算を組み、基本事業に反映される。いただいた意見に対しその後どうなったかを示さないと議論の深まりが難しいように感じているので、次年度の会議の流れについては再考したい。</p>
3. その他	事務局：次回の審議会の日程及び説明
4. 市長あいさつ	